プレスリリース

2026 年 7 月 23 日

Institution for a Global Society 株式会社

東北初、公立校の全教員 35 名が「テストでは測れない力（非認知能力）」を測定・研修｜山形県立酒田西高校が「多面的な生徒理解」の先進モデルへ。

～国の「DX ハイスクール」採択校が挑む、生徒一人ひとりの「強み」を活かした伴走型の教科・進路指導と、教員の指導力向上を両立する新たな教員研修～

山形県立酒田西高等学校で、教育機関向け非認知能力測定ツール「Ai GROW」を活用した教員研修を実施。教員が自らの「表現力」「柔軟性」「自己効力」などの力を測定・体感することで、生徒の非認知能力育成への理解を深める取り組み。



▲ 2026 年 6 月 10 日、酒田西高校で行われた教員相互フィードバック研修の様子

Institution for a Global Society 株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長 COO：中里 忍、以下「IGS」）が開発・提供する非認知能力測定ツール「Ai GROW（アイ・グロー）」を導入する山形県立酒田西高等学校（山形県酒田市、齋藤恵美校長、生徒数 289 名）において、2026 年 6 月 10 日（水）、校長・教頭を含む全教員 35 名が同ツールを受検し、その結果をもとにした相互フィードバック研修会を実施しました。

近年、大学入試における「総合型選抜」の拡大や新学習指導要領が掲げる「主体性・多様性・協働性」の育成に伴い、数値化しにくい「非認知能力」をいかに評価し、指導に活かすかが全国の学校現場で課題となっています。

「Ai GROW」の有償導入実績は東北地方において約 40 校ありますが（2026 年 6 月末時点）、教員全員が受検・研修を行った事例は東北地方初となります。

■ 取り組みの背景

「テストでは測れない力」として近年注目される非認知能力。探究型学習や DX 教育が広がる中、学校現場では、協調性・自己効力・課題設定力・表現力といった能力の測定・可視化への関心が高まっています。

酒田西高校は、文部科学省「高等学校 DX 加速化推進事業（DX ハイスクール）」の採択校として 2024 年度より「Ai GROW」を導入し、全生徒が年 2 回の受検を継続。3 年目を迎えた今年度、「生徒の非認知能力の成長を促すためには、指導・支援にあたる教員自身もその体験と理解を深めるべき」との考えから、校長・教頭を含む全教員 35 名が初めて受検に踏み出しました。

■ 研修の概要

実施日	2026 年 6 月 10 日（水）15：40～17：00
対　象	校長・教頭を含む全教員 35 名
内　容	「Ai GROW」受検結果をもとにした教員相互フィードバック・研修会
ファシリテーター	IGS 株式会社 執行役員 教育ソリューション部長 矢部 一成

■ 本取り組みの特徴

- 東北初、校長・教頭を含む全教員 35 名が「Ai GROW」を受検、研修を実施
- DX ハイスクール採択校として、国の予算を活用した先進的な教育実践
- 生徒 3 年目・教員初年度という段階的な非認知能力教育の実践モデルを構築
- 教員自らが受検し振り返りを行うことで、生徒指導への新たな視点と共通言語を獲得

■ 酒田西高校・齋藤 恵美校長のコメント

「研修の場では、教員同士が弱みではなく『強み』にフォーカスし、互いに共有し合えるポジティブな環境に身を置くことで、チームの一員としての自分自身を客観的に見つめ直すことができました。生徒に非認知能力の成長を促すのであれば、指導にあたる私たち自身もそのプロセスを肌で知ることが不可欠です。本研修は、持続可能なかたちでアセスメント（非認知能力の測定・結果）を活用していくための最高のスタートラインになりました。」

■ 背景：なぜ今、教育現場で「非認知能力の可視化」が必要なのか？

「生徒を多面的に捉える」重要性の高まり

新学習指導要領のもと、ペーパーテスト（認知能力）だけでは測れない、生徒の「主体性」や「協働性」といった力をいかに評価し、引き出すかが全国の学校現場で課題となっています。

先生の「主観」から「客観的なデータ」による生徒理解へ

教員の経験則や主観だけに頼らず、データによって生徒一人ひとりの「隠れた強み」を客観的に可視化。これにより、若い先生からベテラン先生までが同じ基準で、生徒の個性に寄り添った教科指導や進路指

導・学級運営を行うことが可能になります。

教員自らの成長と、組織（学校）としての教育環境の向上

教員自身が自身のコンピテンシー（行動特性）を客観的に把握し、互いの強みを認め合うことで、教員間の「共通言語」が生まれます。これが学校全体としての教育力を高め、より風通しの良い、持続可能な学校運営（働き方改革）の土台となります。

■ 生徒だけなく教員の「非認知能力測定・研修」を行うことで、何が変わるか

「Ai GROW」で測定できるのは、協調性・自己効力・課題設定力・表現力など、受検者の 25 のコンピテンシー（行動特性）。通常、生徒による受検では、生徒自身の自己評価に加え、クラスメイトによる他者評価も組み合わせることで、教員は生徒一人ひとりを多面的に把握できるようになります。測定結果は、教科指導・進路指導・学級運営など、日々の教育実践に直結します。

さらに、酒田西高校のように教員自身が受検することで、生徒と同じ目線でデータと向き合うことが促され、コンピテンシーの各項目が、教員間でも共通言語として浸透していく環境をつくります。教員自身が、自分のコンピテンシーを主体的に活かしたり、コンピテンシーへの理解をベースに協働して取り組んだりする姿勢が、学校全体としての教育環境の向上につながると期待できます。

■ Ai GROW とは

IGS が開発・提供する、教育機関向けの非認知能力測定ツールです。特許取得の独自アルゴリズムによる評価バイアス除去で、より客観的な測定を実現。スマートフォン・タブレットで測定が可能です。

2026 年 3 月現在、全国 630 校に有償導入されており（累計）、令和 7 年度文部科学省スーパーサイエンスハイスクール（SSH）指定校 230 校のうち 65 校も含まれています。

▶非認知能力測定ツール「Ai GROW」について
詳しくはウェブサイトをご覧ください：
https://www.aigrow.jp/

IGS では、「Ai GROW」が蓄積する大規模データをもとにした『非認知能力白書 2025 年度版』を 2026 年 3 月に発行しています。

▶『非認知能力白書 2025 年度版』ダウンロードはこちらから（無料）：

https://www.aigrow.jp/non-cognitive-abilities-whitepaper-2025

■ 会社概要　Institution for a Global Society（IGS）株式会社

社会で力を発揮するうえで重要な「非認知能力」を中心に、人の能力（コンピテンシー・スキル）や気質（変化しづらい特性）を可視化する評価サービスを提供する EdTech/HRTech 企業。企業・学校・自治体向けに、行動特性や強みを数値化し捉えるツールおよびサービスを提供し、個人と組織の成長と価値創

出を支援しています。企業パーパスに「分断なき持続可能な社会を実現するための手段を提供する」、そしてビジョンとして「人を幸せにする評価と教育で、幸せを作る人、をつくる。」を掲げています。
2010 年 5 月の創業以来、国内外の多様な組織との協業を通じて、教育・人材領域の変革を推進し、2021 年 12 月 29 日には東証マザーズ市場（現・グロース市場）へ上場しました。

- 事業内容：学校・企業向けに、非認知能力を含む人の能力・特性を可視化する評価プラットフォームの開発・提供
- 所在地：〒150-0022 東京都渋谷区恵比寿南 1-11-2 4F
- 設立：2010 年 5 月
- 代表者：代表取締役会長 CEO 福原 正大／代表取締役社長 COO 中里 忍
- 資本金：90 百万円（2026 年 3 月末現在）
- コーポレートサイト： https://www.i-globalsociety.com/

■ お問い合わせ

＜「Ai GROW」による測定・研修等サービスに関するお問い合わせ先（学校・教育委員会等）＞

Institution for a Global Society 株式会社　教育ソリューション部 矢部

MAIL：edsales@i-globalsociety.com

＜ご取材に関するお問い合わせ先（メディア）＞

Institution for a Global Society 株式会社　ブランドコミュニケーション室　広報担当 川村

MAIL：pr@i-globalsociety.com